家庭学習の手引き

家庭学習における課題（保護者より）

△勉強をやり始めるまでに時間がかかる。
△どんな自主勉強をやればよいのかわからない。
△もう少し、読書の時間が増えるとよい。
△宿題だけで終わっている。なかなか自主勉強に取り組めない。

２学期・３学期に１回ずつ「家庭学習キャンペーン」を１週間位置付け、全校児童が自分の立てた目標に向けて取り組みます。毎回、保護者の方から上記のような問題点が出されています。家庭学習の習慣をきちんと身に付けるために、どのように家庭学習を進めていけばよいのか、この手引きを参考にしていただければ有り難いです。

＜　学習時間の目安　＞

低学年:20分　　中学年：40分　　高学年：60分

＜　読書時間の目安　＞

低学年:10分　　中学年：20分　　高学年：30分

＜　各家庭での工夫　＞

◎やる気にさせるために・・・

〇ルールを決めたり、目標をもたせたりする。

・学校から帰ってきたら、まず宿題をやる。その後、テレビを見たり、友達と遊んだりしてもよいというルールをつくる。
・夕飯までに勉強を終わらせるという約束をつくる。
・自分なりの目標を立てて取り組む。「漢字をノート〇ページやる。」など

〇ほめる、認める。

・ドリル等の答え合わせを一緒にやり、全部できていたら褒める。（低学年）
・傍で、がんばるように声をかけて、励ます。（低学年）
・勉強をしている時は、あまり干渉せず、できたら「がんばったね。」とほめる。（高学年）

〇親も同じ気持ちになってやる。

・分からない問題を一緒に考える。
・一緒にテレビのニュースなどを見て、そのことを話題にする。
・テスト直しはその日のうちに、なぜその答えになるのかを確認させる。

◎集中して取り組ませるために

〇見通しをもって取り組ませる。

・１週間のスケジュールを考え、学習開始時刻を決める。
・タイマーを使って、時間を知らせる。
・３０分やったら１０分休み、などのサイクルをつくる。

〇集中できるような環境を工夫する。

・「～しながらの勉強」ではなく、静かな環境をつくる。
・宿題をやっているときは、テレビをつけない。
・机の周りに余分なものを置かず、集中できる環境をつくる。

◎学力の定着を図るために

「ドリル学習」の答え合わせ・間違い直しを確実に

・ドリル学習は漢字・計算ともに「２回」を基準にしています。
・ドリルなど、間違ったところは、その番号に赤丸を付けます。どんな間違いをしたのかやり直して、正しい答えになったかを確かめます。２回目は間違えた問題に気を付けて、正しく解けると力がつきます。また、３回目にも進んで取り組めると、さらに力がつきます。
・高学年になるにつれ、保護者の目が離れがちになり、ドリルの答え合わせがしっかりできず、間違えたままになっている実態があります。いい加減なドリル学習では、誤ったまま覚えてしまう危険性があります。お子さんのノートを見ていただき、励ましや見届けをお願いします。

タブレット学習を取り入れる

町から貸し出されているタブレットの中に、「e ライブラリ」「GifuWeb ラーニング」というショートカットがあります。ログイン画面で、学校コード、ログインＩＤ、パスワードを入力してください。分からない場合は、担任にお問い合わせください。

「読み取る力」、「書く力」をのばそう

中小学校では、内容を正しく読み取ったり、自分の考えをまとめ、表現したりする力がやや弱い傾向にあることがわかりました。学校では、国語の学習を中心とした授業において、自分の考えをまとめるときには、目的や意図に応じた文章の構成や表現ができるように指導しています。また、高学年では、ニュースを読んで、その内容をまとめたり、自分なりの感想を仲間に伝えたりする活動も位置付けています。

家庭学習においても「書く力」の基礎を培うために、「視写」（文章をそのまま写す）に取り組むこともよいかと思います。時間を決めて、教科書の文章、図や表、説明文などをノートにていねいに写すことで「て、に、を、は」の使い方や文章の構成、絵や図を使ったわかりやすいまとめ方など、各学年に応じて学習していくことができます。高学年では、ぜひ家庭学習でも関心のある記事の感想を書きまとめることに取り組めるとよいです。

毎学期行われる「ノート展」では、全校一斉に、下記のような**「書き方名人５ヶ条」**を意識して取り組んでいます。

＜書き方名人５ヶ条：こんなノートをめざそう＞
①（ページをとばさずに）下じきをしく→日にち→題名
② ていねいに（字、線やマス目にあわせて、線は定規で）
③ 課題は赤、まとめは青
④ 自分の考えを書く（まちがいは残して）
⑤ 大切なところは色で強調、番号や矢印で分かりやすく

小学校　1年生

☆こつこつと，まいにちやろう。

・おなじばしょで　べんきょうしよう。
・２０ふんをめやすに，まいにちつづけよう。
・おかしをたべながら，てれびをみながらの「ながらべんきょう」は，やめよう。

☆きそくただしいせいかつをしよう。

・はやね，はやおきをして，あさごはんはかならずたべ，あさうんちをしよう。
・かぞくのひとりとして，すすんでいえのてつだいをしよう。
・がっこうにもっていくものは，まえのひにたしかめよう。

①さあ，はじめるよ

〇つくえのうえはきれいかな？てれびをけして，はじめよう。
〇はじめに，しゅくだいをしよう。

②こんなことをします

しゅくだいでは

こくご　〇おおきなこえで，すらすらと　ただしく　おんどくします。
〇おんどくは，いえのひとにきいてもらい，かあどにしるしをかいてもらいます。
〇ひらがなぷりんとやかんじどりるは，かきじゅんやもじのかたちにきをつけて，ていねいにかきます。
〇まちがったじがないか，いえのひとにこたえあわせ・〇つけをしてもらいます。

さんすう　〇けいさんかあどやけいさんどりるで，けいさんのれんしゅうをします。
〇いえのひとにこたえあわせ・〇つけをしてもらいます。
〇まちがったもんだいは，もういちどやりなおします。

じしゅがくしゅうでは

〇すすんでどくしょをしよう。いえのひとといっしょにほんをよんで，かんそうをはなしあおう。
〇すすんでおてつだいをしよう。いえのひとにききながら、いろいろなおてつだいにちょうせんしよう。
〇がっこうであったことをいえのひとにおはなししよう。

③べんきょうがおわったら

〇えんぴつをけずり，ふでばこのなかみをそろえよう。
〇あすのよていをみて，きょうかしょ，のおと，したじきをそろえ，かばんにいれよう。
〇とくべつにひつようなもちものも，わすれずにじゅんびしよう。